

3泊4日研修旅行 めんそ〜れ！沖縄

甲府一高新聞

研修旅行号

発行所
甲府一高新聞部
甲府市美咲二丁目13-44



【美ら海水族館】

普通科が訪れた沖縄は、冬でも平均気温が15℃程度と高く温暖なため、過ごしやすい。沖縄には本土では味わうことのできない独自の文化が多数ある。沖縄の方言を意味する、うちなーぐちには沖縄でしか聞けない言葉が沢山ある。滞在中に最もよく聞いたうちなーぐちは、「こんにちは」を意味する「はいさい」である。この言葉は様々な場所でも私たちが迎えてくれた。方言だけでなく、食文化や気候が本土とは異なり、非日常を体験できるのが沖縄の魅力だ。そんな場所ではあるが、日本でも唯一の地上戦が行われたところであり、私たちは平和について考える機会ともなった。

2学年普通科は12月10日(火)から13日(金)にかけて沖縄県、探究科は12月9日(月)から13日(金)にかけて台湾にそれぞれ研修旅行が行われた。今回の号ではそれぞれの研修旅行の活動内容をお届けする。

美ら海水族館

班別行動中、沖縄の観光名所の1つである「美ら海水族館」には沢山の生徒が足を運んだ。美ら海水族館は、4つのエリアに分かれており、特に人々の目を引き付けていたのは「黒潮の海」というエリアだ。大水槽の中には、全長約9mのジンベイサメやナンヨウマンタなど約70種の生き物が飼育されている。外には、オシヤニックスゾーンがあり、イルカショーが行われている他、ウミガメ館やマナティ館がある。来館者数日



【自由に泳ぎ回るクロウミガメ】

本一を誇る美ら海水族館は、世界最長飼育記録を更新中であるジンベイサメをはじめと

道の駅 許田

班別行動では、沖縄県内の道の駅第一号であり、2000年に全国道の駅フロンティア第一位に輝いたこともある人気スポット「道の駅 許田」に立ち寄る生徒も見られた。道の駅許田は沖縄県名護市に位置しており、ホテルから美ら海水族館に向かう途中にある。中には周辺の情報を入手できる情報・観光コーナー、地元



【道の駅 許田】

糸数アブチラガマ

平和学習では戦争を体験した方の講話を聴いたり、平和祈念資料館を見学したりするほか沖縄戦で住民の避難所となった洞窟、通称ガマにも赴いた。沖縄戦は1945年3月26日から始まり9月7日に終了した。今回訪れた糸数アブチラガマの由来は深い縦の洞窟を表す「アブ」、沖縄の方言で崖が縦に大きく落ち込んだところを言う「チラ」と洞窟やくぼみを意味する「ガマ」から来ている。全長270mを誇る自然洞窟で沖縄戦時には避難所としてだけでなく、食料やその他物資の倉庫、日本軍の地下陣地、戦



【糸数アブチラガマの全体図】

おきなわワールド



【沖縄文化を味わえるテーマパーク】

修学旅行2日目は、午前中に平和学習を行い、午後には南城市にある「おきなわワールド」にクラス毎時間をずらしながら訪れた。おきなわワールドでは、先祖供養のために沖縄の伝統芸能で踊られているアササのショー「スパーエイサー」を観た。伝統楽器であるパーンクやエイサー太鼓を力強く叩き、「アヤササ」の掛け声を会場に響かせ、多くの観客を沸かせていた。昼食をとり終えたあと、おきなわワールド内での自由行動となった。魅力あるスポットが多い中、多数の生徒が向かった場所は玉泉洞とハブ博物館だ。玉泉洞は、約30万の年月をかけてできあがった、全長5000mの国内最大規模を誇る鍾乳洞である。玉泉洞内の有名なスポットとして、青の泉や白銀のオーロラがある。そこは、普段の生活では味わうことのできない神秘的な空間が広がっている。ハブ博物館は、40年以上前に沖縄のハブ被害を少しでも減らしたいという想いのもと設立された。施設内では、ハブをはじめ様々な生物と触れ合うことができ

食と文化の島、台湾へ！

絶品台湾グルメ

私が2日目の昼食で向かった鼎泰豊は日本にも店舗を構える小籠包の名店である。小籠包は、酢醤油につけ、生薑とともにいただくのが基本である。口に入れるとスープがあふれ、



【肉汁が溢れ出す小籠包】

もちもちの生地とあんのみがマッチしてとても美味しい。デザートには胡麻あんまんを食べた。小さいながらもたっぷりとゴマが



【忠烈祠で行われる衛兵交代式】

台湾を知る

12月9日から12月13日まで、探究科は研修旅行として台北市を巡った。団体では観光スポットとして名高い九分や故宮博物院、加えて一高とも交流のある和平高級中學などに向かい、自由行動では各々が計画していた場所を班ごとに楽しんだ。多くの学びと出会いを得た五日間であった。

台湾は中国の東方に位置する、3分の2が山でできた自然豊かな島だ。面積はおよそ3万6千キロメートルで、九州よりもやや小さい。人口は約2300万人で、日本の総人口の6分の1程度だ。中国語や台湾語などが主要言語だが、英語や日本語が通じる場所も多い。台湾の通貨はニュー台湾ドルと呼ばれるもので、1ドル約4・7円で流通している。台湾で買い物をする際は値段を5倍にすると入っており、ほどよい甘さが絶品の一品だった。台湾の永康街に行く機会があれば訪れてほしい、台湾人にも大人気な店がある。東門駅から五分ほど歩いた先にある天津葱抓餅が外せない。この屋台は売り手が一人しか入れないほど小さい店だが、長蛇の列ができるためすぐに見つけれられる。手際よく細切りにされた玉ねぎが入ったもちもちの生地には醤油を塗って、高温で一気に焼き、中には卵やハムを挟むこともできる。長

分かります。



【天津葱抓餅のプレーン】

い行列と街の人々のにぎやかな声、出来立て熱々の提供が天津葱抓餅の美味しさをさらに引き上げてくれることだろう。

カメラを連れて

研修旅行中、一番に感じた台湾の魅力は、台北101のような近未来的な高層ビル群と舊の絡まった昔ながらの建築物が入り混じるその風景のミスマッチさである。初めての土地を歩いていると、どこか懐かしさを感じるの



【存在感を放つ台北101】

は看板に書かれた無数の日本語と、かつて日本が台湾を統治していたという歴史の名残からだろう。中国とも日本とも異なる唯一無二の空気を纏った景色がとても印象に残った。

街並みの他にも故宮博物院の象牙から作られた美しい芸術品や行天宮などの壮観な寺院は思わずカメラのシャッターを切りたくなった。

旅行中の食事も強く印象に残っている。独特な香辛料の香りが漂う海鮮料理や伝統料理の北京ダックもだが、夜市や街歩きながら購入した屋台グルメが特に美味しかった。五日間、和平高級中學の生徒達と交流したり、

台湾研修旅行記

冒険の始まり



【多くの人で賑わう士林夜市】

初めての台湾に、期待に胸を膨らませ向かった。2日目にはB&Sプログラムに参加した。班ごとにスケジュールを組み、

現地の学生がガイドとなり台北市内の名所を案内してくれる仕組みだ。私の班では龍山寺や永康街などを回った。龍山寺に



【九分の裏路地】

はおみくじがあり、まずはボエという三日月型の道具を、二つ手に取り同時に投げる。表と裏が一つずつ出ればおみくじを引くことが可能で、大吉を引き当てることができた。永康街ではスターバックスを訪れ、台湾限定のドリンクを楽しんだ。夜には士林夜市を訪れた。射的に挑戦したが、想像よりも難しく参加賞のみに終わった。

3日目に和平高級中學へ向かい、国際交流として探究活動のプレゼンを行った。英語での発表は少し難しかったが、これからの探究活動に生かせる良い経験となった。たくさんのお土産をいただき

き学校を後にした。十分では灯籠上げを体験し、自分の思いを灯籠に込めた。九分は無数の提灯に彩られた街だ。台湾の観光スポットとしても特に有名で、土産物店やレストランも多い。その美しさに感動しつつ買い物や写真撮影を楽しんだ。外国に滞在し、文化の違いを体感した一週間となった。台湾には一生忘れられないような、心に残る深い魅力が詰まっていた。

バスや円卓で友人と話したりしたこと、今後も心にとめておきたい大切な宝物になった。

いつかまた、また味わっていない台湾の料理と新しい光景を求めて訪れた場所だ。



【細部まで建築家のこだわりを感じる行天宮】